

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が5例(10歳未満男性, 20歳代男性及び10歳未満女性各1例, 20歳代女性2例)あり, 血清型は全てO103でした。1例の症状は発熱及び下痢, 他の4例は無症状でした。本年の累積報告数は19例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(60歳代男性)ありました。症状は発熱及び肺炎で, 感染地域は国内です。本年の累積報告数は14例となりました。
- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり, 症状は肺炎及び菌血症です。感染地域は国内で, 感染経路は飛沫・飛沫核です。本年の累積報告数は5例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(30歳代男性及び女性)あり, いずれも感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は37例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
- ・ 百日咳の報告が12例(10歳未満男性2例及び女性7例, 10歳代男性3例)(第26週追加報告分含む)あり, いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は65例となりました。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 京都市が12.09, 全国が9.79でした。第19週以降8週連続して増加あるいは前週同数となっていることに加え, 京都市では第24週以降, 全国では第25週以降, 警報が継続しており, 流行状態にあると言えます。予防や感染拡大防止を心がけてください。

◆ 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

京都市の伝染性紅斑の定点あたり報告数は1.51(65例), 全国の定点あたり報告数は0.93(2,940例)となりました。今年の報告数の推移は過去に例を見ない高水準を維持しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 1例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 164例(肺結核 68例, その他結核42例, 潜在性結核感染者 54例)うち喀痰塗抹陽性 34例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 5例【1月以降の累積報告数 19例】
- ・ 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- ・ 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 37例】
- ・ 五類:百日咳 12例【1月以降の累積報告数 65例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 09	6
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	12. 09	520
	② 感染性胃腸炎	4. 16	179
	③ ヘルパンギーナ	1. 63	70
	④ 伝染性紅斑	1. 51	65
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 91	39
眼科	流行性角結膜炎	0. 30	3

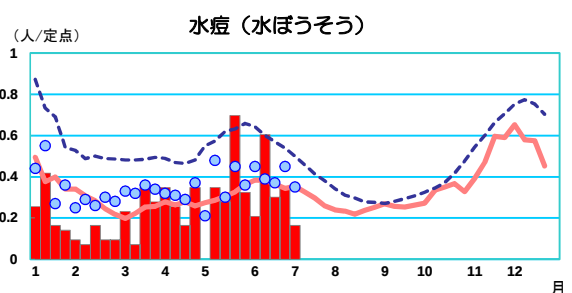
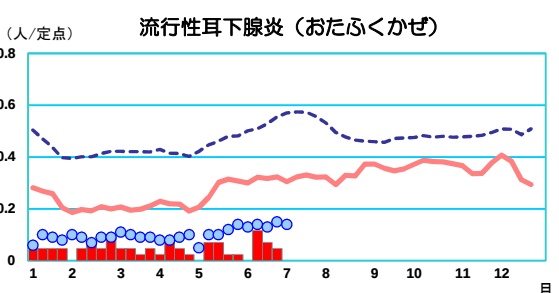
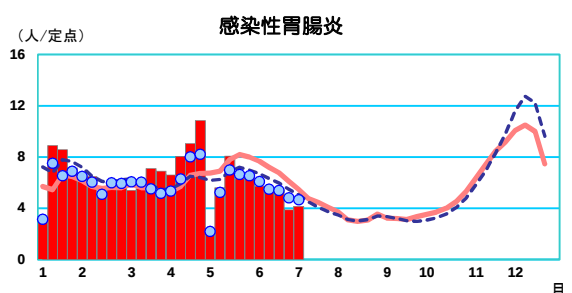
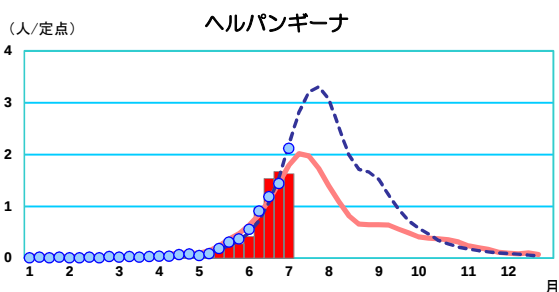
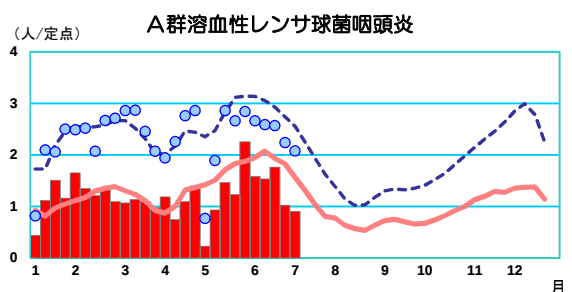
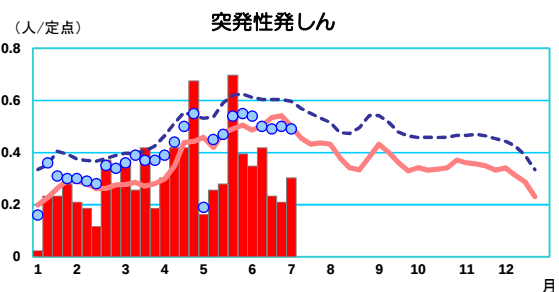
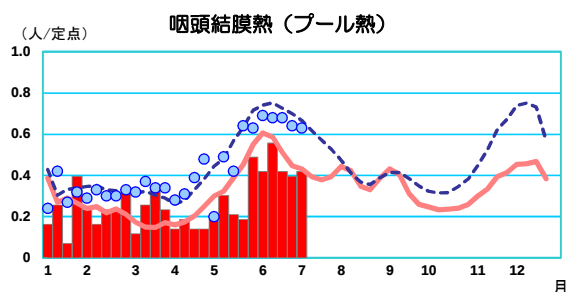
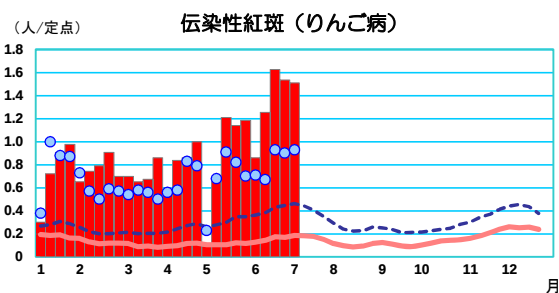
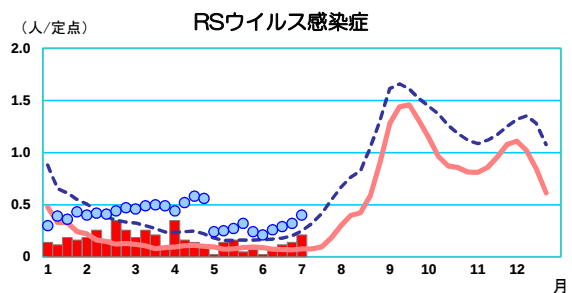
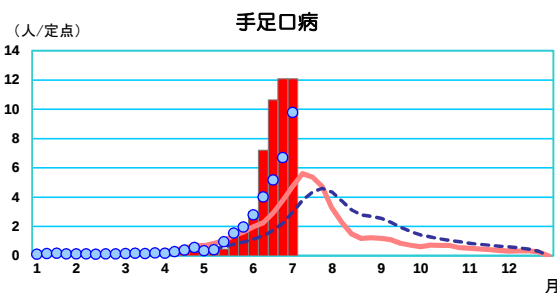
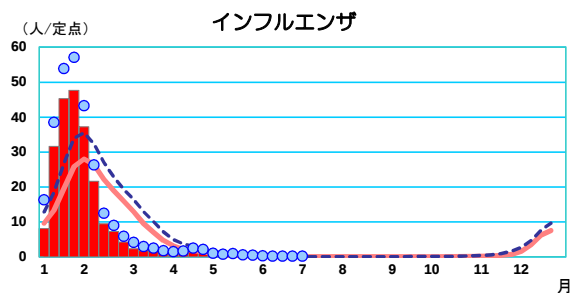
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2019年7月10日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第27週(7月1日～7月7日)トピックス: <伝染性紅斑>

京都市及び全国状況

京都市の伝染性紅斑の定点あたり報告数は1.51(65例)、全国の定点あたり報告数は0.93(2,940例)となりました(図1)。2015年からの週別報告数を積み上げグラフとして見ると、今年の報告数の推移は過去に例を見ない高水準を維持しており、この傾向は昨年の46週以降にその端緒が観察されます(図2)。全国の定点あたり報告数について、流行期を見やすくするために年毎の定点あたり報告数が75パーセンタイルである0.39を超えた週数をプロットすると、1997年、2002年、2007年、2011年、2015年および2019年(今週まで)の4～5年おきに流行期のピークが観察され、今年が流行期であることを示しています(図3)。

症状

本疾患はヒトパルボウイルスB19を原因とする発疹性感染症で、その感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきによる飛沫、あるいは接触感染です。10～20日程度の潜伏期間の後ウイルス血症(初期の感染部位から血液への最初の拡散)を起こし軽い風邪症状を示すことがあります。次いでこの疾患の最大の特徴である両頬にりんごのような紅い発疹が現れ、続いて手足にも発疹が見られます。発疹を呈した時点でウイルス血症はほぼ無くなり周囲への感染性もほとんどなくなります。特効薬はなく、対症療法となりますが、ほとんどは軽症で予後良好です。しかし、妊婦が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こすことがあります。

予防

予防接種はなく、日頃から一般的な感染予防対策である手洗いとうがい重要です。また、好発年齢が3歳～6歳であることから、保育施設等の集団発生を予防するためにも、流行時期に風邪症状等があれば、早めに医師の診断を受け、周囲に感染が広がらないように気をつける必要があります。また、これらの施設で流行している場合には、その流行が収束するまでの間、妊婦が施設内に立ち入ることは、可能な限り控えましょう。

図1 京都市及び全国の週別定点あたり報告数の推移(2019年)

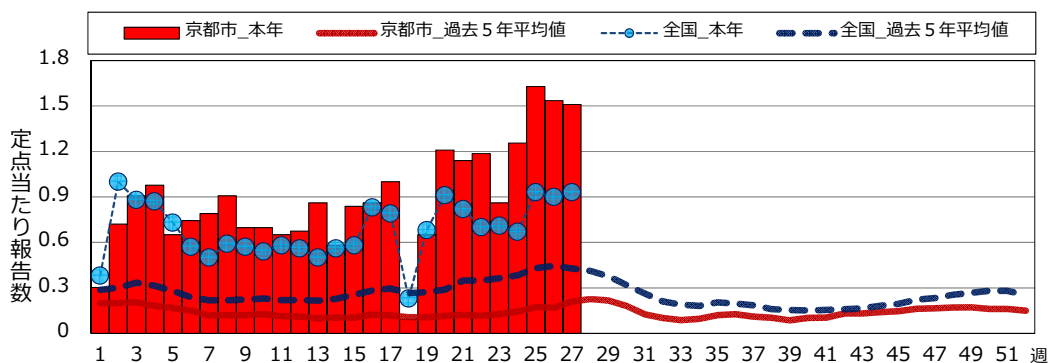


図2 京都市の週別定点あたり報告数の推移(2015～2019年)

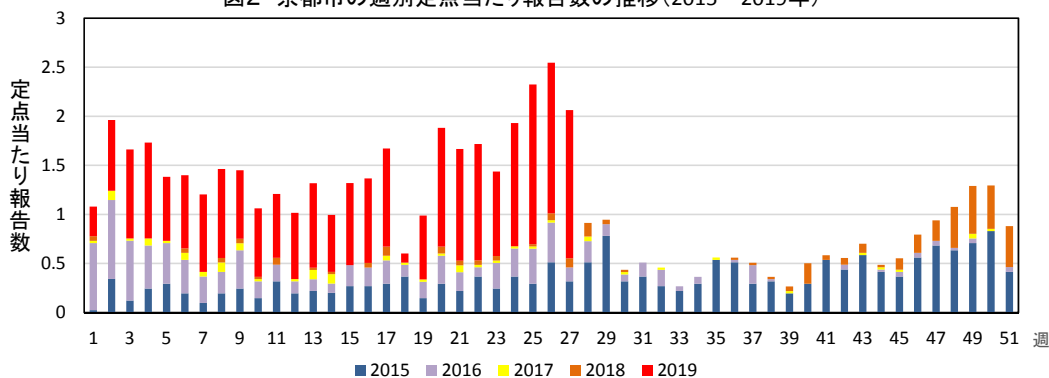
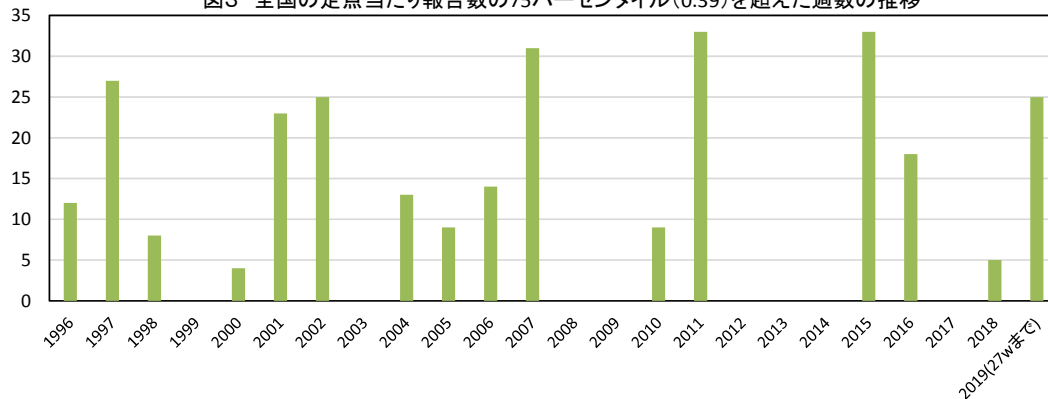


図3 全国の定点あたり報告数の75パーセンタイル(0.39)を超えた週数の推移



T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第27週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年7月1日～2019年7月7日

データ入手日:2019年7月10日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	6	－	－	－	－	1	－	－	－	1	1	－	2	－	－	－	－	－	－	1	－
RSウイルス感染症	年齢3	9	5	－	1	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		18	－	1	6	1	4	2	2	1	－	1	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		39	－	－	4	6	4	2	8	2	4	4	－	4	－	1						
感染性胃腸炎		179	2	19	32	17	14	11	13	9	8	9	8	22	1	14						
水 痘		7	－	－	－	－	1	1	1	2	－	－	－	2	－	－						
手 足 口 病		520	5	57	191	130	63	36	15	5	3	2	3	2	－	8						
伝 染 性 紅 斑		65	－	1	5	4	8	13	13	4	7	2	－	3	1	4						
突発性発しん		13	－	7	5	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		70	－	9	20	13	14	3	5	1	1	－	－	－	1	3						
流行性耳下腺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	1	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	0.09	－	－	－	－	0.01	－	－	－	0.01	0.01	－	0.03	－	－	－	－	－	－	0.01	－
RSウイルス感染症	年齢3	0.21	0.12	－	0.02	0.02	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.42	－	0.02	0.14	0.02	0.09	0.05	0.05	0.02	－	0.02	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.91	－	－	0.09	0.14	0.09	0.05	0.19	0.05	0.09	0.09	－	0.09	－	0.02						
感染性胃腸炎		4.16	0.05	0.44	0.74	0.40	0.33	0.26	0.30	0.21	0.19	0.21	0.19	0.51	0.02	0.33						
水 痘		0.16	－	－	－	－	0.02	0.02	0.02	0.05	－	－	－	0.05	－	－						
手 足 口 病		12.09	0.12	1.33	4.44	3.02	1.47	0.84	0.35	0.12	0.07	0.05	0.07	0.05	－	0.19						
伝 染 性 紅 斑		1.51	－	0.02	0.12	0.09	0.19	0.30	0.30	0.09	0.16	0.05	－	0.07	0.02	0.09						
突発性発しん		0.30	－	0.16	0.12	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		1.63	－	0.21	0.47	0.30	0.33	0.07	0.12	0.02	0.02	－	－	－	0.02	0.07						
流行性耳下腺炎			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.30	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	0.10	－	－	0.10	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第27週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年7月10日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		89	71	17	10	8	6
RSウイルス感染症		3	1	3	5	6	9
咽 頭 結 膜 熱		21	18	24	18	17	18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		97	68	66	76	44	39
感染性胃腸炎		276	246	230	233	167	179
水 痘		14	9	26	13	15	7
手 足 口 病		84	129	310	458	520	520
伝 染 性 紅 斑		51	37	54	70	66	65
突発性発しん		17	15	18	10	9	13
ヘルパンギーナ		12	18	42	66	72	70
流行性耳下腺炎		1	－	5	3	2	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		5	2	3	8	1	3
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	1	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	2	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		670	615	798	972	927	929

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		1.29	1.03	0.25	0.14	0.12	0.09
RSウイルス感染症		0.07	0.02	0.07	0.12	0.14	0.21
咽 頭 結 膜 熱		0.49	0.42	0.56	0.42	0.40	0.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.26	1.58	1.53	1.77	1.02	0.91
感染性胃腸炎		6.42	5.72	5.35	5.42	3.88	4.16
水 痘		0.33	0.21	0.60	0.30	0.35	0.16
手 足 口 病		1.95	3.00	7.21	10.65	12.09	12.09
伝 染 性 紅 斑		1.19	0.86	1.26	1.63	1.53	1.51
突発性発しん		0.40	0.35	0.42	0.23	0.21	0.30
ヘルパンギーナ		0.28	0.42	0.98	1.53	1.67	1.63
流行性耳下腺炎		0.02	－	0.12	0.07	0.05	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.50	0.20	0.30	0.80	0.10	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	1.00	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	2.00	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		15.19	14.81	18.64	25.08	21.56	21.78

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。